自衛隊体育学校ニュース速報（2011.6.26）

今鉾日本新記録達成!!

今鉾2尉

2連覇8度目の優勝!!

106.0
めざせロンドン!

日本新記録を達成した今鉾2尉

谷怒濤の4連覇!!

97.0
谷 綾野
自衛隊体育学校
めざせロンドン!
All Japan Champion ships

大会新記録を達成した谷2曹

谷2曹

堰川2曹

綾部3曹

金城士長

上地2曹

6月24～26日さいたま市記念総合体育館で行われた平成23年度第71回全日本ウエイトリフティング選手権大会・第25回全日本女子選手権大会において、女子75kg級に出場した今鉾一恵2等陸尉がスナッチで１０６kgの日本新記録を達成し、トータルでも２２６kgの大会新記録で2連覇、8度目の優勝。女子69kg級の谷綾野2等陸曹はスナッチで97kgの大会新記録を出すなど強さをみせトータル２１２kgで優勝、4連覇。その他、男子62kg級では上地克彦2等陸曹は２０１０年世界ランキングでは31番相当となるトータル２７１kgで準優勝し世界選手権出場への可能性を残した。また、昨年本大会及び国体で優勝を飾った綾部昌慶3等陸曹が準優勝。女子58kg級金城尚乃陸士長が自己ベストとなるトータル１８５kgで準優勝。男子56kg級では、北京五輪代表堰川康信2等陸曹が3位、来年に期待をつなげた。同階級では越智一平2等陸曹が4位入賞、また、男子69kg級で横山勝一陸士長が5位入賞を果たした。

今年11月パリで開催される世界選手権ではロンドンオリンピックの枠取りがかかって来る。今回の全日本選手権の結果、正式に決定するのは6月30日からマレーシアで開催される世界ジュニア選手権の結果を見て決定されるが、優勝した今鉾、谷、そして準優勝ながら記録的に悪くなかった上地は選ばれる公算が大きい。世界選手権では、日本としてオリンピック国別出場枠を女子4枠、男子3枠の獲得が目標となる。ウエイトリフティングの世界的レベルから言えば決して簡単ではないが、女子は昨年の世界選手権並みの成果を収めれば可能だ。その中で、8位入賞ライン以内に入れば、オリンピック代表が内定されるものと見られる。53kg級の三宅宏美選手、75kg超級の嶋本麻美選手、城内史子選手等は8位以内の活躍が見込まれるので、今鉾、谷は一層奮起して記録を伸ばして行く必要があるだろう。男子は女子以上に世界選手権での出場枠獲得は難しい。世界選手権で出場枠が獲得できない場合、大陸別選手権である来年アジア選手権に戦いは移る。男子の場合、今年優勝できなくても、アジア選手権に出場できれば五輪の可能性は残っている。

女子75kg級

２００８年に肩の手術を行い、２年間のリハビリを経て、昨年復帰した今鉾一恵2等陸尉は、昨年の本大会で2年ぶりの優勝を飾ったものの、記録的には２１３kgと完全復活とは言い切れなかった。だが、その後も地道に練習を重ね、練習では全盛期の記録を上回る様になり、復調への階段を着実に歩んでいたが、昨年の世界選手権や今年5月のアジア選手権では、練習で出せた記録を本番の試合で出せない状態だった。だが、今回は一呼吸、間をおいて試技を始めるなど落ち着いて競技することに着意したという。その成果が出たのか、スナッチでは、1本目の１００kgを難なく成功させると、続く大会記録となる１０４kgを成功。さらに3本目、自身が２００５年に東アジア大会で出した日本記録１０５kgを上回る１０６kgへ挑戦。難なく成功させ日本新記録を達成した。ジャークでは1本目の１１７kgを成功させると、トータルで大会記録となる１２０kgへ挑戦、見事クリア。3本目は１２３kgを失敗したものの、トータル２２６kgは、故障以前の力を上回るもので、今鉾が完全復活したことを証明した。この２２６kgは２０１０年世界ランキング23位相当となり、世界で戦う資格を得たことになる。今鉾は試合後「今まで、練習してきた力が本番に発揮できなくて悔しい思いをしていましたが、今日はプラットフォームにあがった時、すぐに競技を始めるのではなく、一呼吸おいて、競技を始めました。すると、応援がひときわ大きく聞こえ、頑張ることができました。今現在、スナッチでは１０８kg、ジャークで１２４kg（トータル２３２kg）を練習ではあげられる様になってきたので、世界選手権ではトータル２３８kgを目指して頑張っていきたいと思っています」と語り、2年間競技ができないという状況から苦労して復活してきた今鉾がようやくロンドンを現実として見えて来るまでになったことは体育学校にとって大きな成果だ。

女子69kg級

昨年アジア大会で6回の試技のうち4回で日本新記録を達成し大活躍をした谷綾野2等陸曹は、アジア大会以降、以前故障していた股関節が悪化し、本調子になれないなかで、全日本代表チームの韓国合宿、5月のアジア選手権とハードな日程をこなしたせいか、今回の全日本選手権前には、本格的な練習ができない状態になっていたという。それでも、低迷する日本ウエイトリフティング界にあって世界で戦える数少ない人材の一人である谷は、たとえ高記録は期待できなくても、優勝はしなくてはならないと決死の覚悟で試合に臨んだ。それでも、谷の闘争本能が燃えたのか、スナッチでは1本目で谷としては低めの92kgを危なげなくクリアすると、2本目には大会新記録となる95kgをクリア。さらに3本目にはアジア大会で谷自身で出した日本記録と同じ97kgに挑戦。無難にクリアし、大会新記録を達成。ジャークでは1本目１１５kgをクリアしたが、2本目は１２０kgを失敗。だが、3本目敢えて谷はトータルで２１９kgの日本新記録となる１２２kgに挑戦。しかし、失敗。結果的にはトータル２１２kgに終わる。調子が悪いながらも優勝した谷は、試合後「股関節の調子が悪く、本当にぶっつけ本番という状態で試合に臨みましたが、それでも今日はトータルで２２０kgを目指していたので、この結果には残念です。11月の世界選手権ではトータルで２２９kgを達成したいと思います。女子のナショナルチーム監督でもある体育学校三宅敏博（1等陸尉）コーチをロンドンオリンピックに連れて行きたいので出場権を獲得できる様に頑張りたいと思います」と語った。谷の掲げた２２９kgは世界選手権8位入賞ラインと想定される数字。目標は見えている。今後の谷に期待したい。